

第1回仁淀川清流保全推進協議会議事録

平成22年6月10日10:00～12:00 場所：かんぼの宿伊野1F会議室

○鍋島課長（事務局） — 挨拶 —

○東谷（事務局） — 資料確認 —
— 委員の紹介 —

○上田（事務局）
議題（1）「仁淀川清流保全推進協議会設置要綱について」（資料1）の説明

○東谷（事務局）
この件について、質疑をお受けしたいと思いますが、何かございませんでしょうか。

— 質疑なし —

○東谷（事務局）
それでは、次に、議題（2）の「会長・副会長の選任」に移りたいと思います。
会長及び副会長は、設置要綱の第5条第1項で、委員の互選によるとなっています。
いかがでしょうか。

○大石委員（代理）仁淀川町企画課 下久保課長補佐
事務局案はありませんか。

○東谷（事務局）
それでは、事務局から、会長と副会長の推薦をさせていただいてよろしいでしょうか。

○委員
— 異議なし —

○東谷（事務局）
事務局から、会長に石川委員、副会長に福留委員を推薦させていただきます。

○委員
— 異議なし —

○東谷（事務局）

ご異議ないようですので、石川委員に会長を、福留委員に副会長をお願いしたいと思います。よろしければ拍手でご賛同をお願いします。

○委員

－ 拍手 － （承認）

○東谷（事務局）

それでは、会長を石川委員に、副会長を福留委員をお願いいたします。
では、設置要綱に基づきまして、以後の進行を石川会長にお願いすることといたします。

○石川会長

それでは、議題（３）「第２次仁淀川清流保全計画」に移りたいと思います。
事務局の方から説明をお願いします。

○上田（事務局）

議題（３）「第２次仁淀川清流保全計画」（資料２）の説明

○石川会長

それでは、ご説明のありました、「第２次仁淀川清流保全計画」の内容について、皆さん何かご質問等はございませんでしょうか。

○福留副会長

鉄ダンゴの投入について、その後の効果は調査していますか。

○麻岡委員

これにつきましては、20年度に畠山先生の講演を聴きまして、非常に効果があるということで、その年の12月11日に、粘土を1/3、炭を1/3、鉄くずを1/3混合して約1kgの鉄ダンゴを130個作りまして、それを400度から500度で熱して投入をしました。鳥取の方では既にモクズガニについては成功されているようですが、1月4日に検証をしたところ、そのダンゴに何十ものカニがよってきていました。これはおもしろいと、しかしまぐれかもしれないということで、もっと下流で、カニかごに餌を入れずに鉄ダンゴを入れて行いました。そうしたら40匹ぐらいのモクズガニが入っていたので2日続けたところ、2日とも40匹以上のモクズガニが入っており、これは効果があると考えました。元々は昆布に効果があると聞いたので、アオノリにも効果があるのではないかと考えて再度鉄ダンゴを投入しました。そして夜に覗いてみますと、60cm位

のボラが、網ですくえるぐらいかなり集まっていました。アオノリについても、大体年間200kg位しか獲れていませんでしたが、2月だけで500kg位のアオノリが獲れたため、おそらく5月までには1500kgのアオノリが獲れると思っていましたがそこまでは獲れず、四国電力の放水で冷たい水が流れたことや、濁りが出たこと、河口が閉塞したこと、この3つの何らかの影響があるのではないかとということで、調査もしていただいておりますがまだ原因が分かっておりません。ただ、先程言いましたように、アオノリについても、年間200kgだったものが、既に2月で500kg獲れたことや、カニ、ボラにも効果がありました。水産試験場に聞いてみると、十文字から下流には若干の鉄分があると、しかし、上流にはほとんどゼロに近いと聞いたので、22年の3月までに本流・支流に500個の投入をしております。そして今後4～5年は検証していくこととしてます。なお、7、8月には再度鉄ダンゴを作って投入したいと考えています。

○石川会長

ありがとうございました。なかなかすばらしい実験だと思います。この他ご質問、ご意見はございませんか。

○麻岡委員

この計画に出てないですが、ダムの問題がこの計画では全然検討されていないようです。仁淀川漁協としては、ダムが河川に大きな影響を及ぼしていると考えてます。現在も非常に濁っているが、大渡ダムから、普段は四国電力が20トン以下で電力を発生しているが、最近の長雨の影響で、多い時には35トンぐらい放流しています。大渡ダムは放流をしていないけれども、四国電力がダムの水を放流しないとダムがもたないということで、普段は20トンを割っているが今は35トンを超えているため非常に濁っています。私たちも写真を撮らなければならないことがあったが、清流仁淀川というがこんな濁った水を撮ってはいけなと。このため、大渡ダムに申し入れをしたが、大渡ダムは放流をしていないが、四国電力が放流をしているとのことでした。

それからもう一つは、砂利の問題がこの計画に全然載ってないわけです。我々が福留先生から近自然工法を導入したのは、砂利対策の一環です。河床はどんどん今低下しております。土佐市の鎌田井筋に水がかからないという問題も出ています。計画に載っている五色石はダムの影響でほとんど採れず、桂浜でもほとんど採れなくなっています。私たちはダムを撤去とは言わないが、ダムの護岸へボーリングをして、壊れないような対策を進めているようだが、水をためて流すといったことを2年くらいかけて実施しないと効果が判明しないと聞いています。私たちは、砂利の問題、ダムの問題を何とか解決しないと、清流仁淀川を取り戻すことはなかなか難しいと考えています。

○鍋島課長（事務局）

今言われた点ですが、例えば四国電力の放流が多いというのは、今年の2月から5月にかけて、例年の3割り増し位、多くの雨が降ったという今年に限っての特異な現象があったのではないかと思います。この計画の中ではダムとか砂利の問題はふれておりませんが、こういった問題については、県の土木部などの部署で協議がされておりましたが、こういった問題については、県の土木部などの部署で協議がされておりましたが、その経過も踏まえながら計画を推進していきたいといったことでありますので、計画には直接記載しておりません。ただ、今言われましたように、これらの問題は清流を守っていくうえでは非常に重要なことですので、色んな方面で行われている検討事項を、この協議会に報告させていただきたいと考えています。

○三戸委員

大渡ダムもそうなんですけれども、他にもダムはありますが、濁水の問題はご指摘をいただいております。大渡ダムについては、現在実施している地滑り対策等をしっかりとやっていきたいと考えています。

また、今後、仁淀川河川整備計画を作成する予定をしており、皆様のご意見をいただく機会もあろうかとも思いますが、この清流保全計画とも連携を図りながら、清流保全を考えていきたい思います。

○石川会長

川は流域が全てつながることが大事だが、川を管理する行政側の横断的なつながりも、今後ますます重要になってくると思いますし、ダムをどうしたらよいかということも、土木部とか環境共生課で協議していただけたらと思います。

この計画が絵に描いた餅にはならないように、仁淀川が良くなっていくよう、今後取り組んでいくこともこの計画に書いてありますので・・・。

○森委員

会長にお聞きしたいのですが、6月6日に全国一斉の水質調査が実施されたと思いますが、私は参加できなかったもので、仁淀川ではどれだけの方が参加して調査されたか、もし分かっておれば教えてください。

○石川会長

まだ全体のことを把握していないのですが、仁淀川お宝探偵団では6カ所を測定しました。毎年、日高や佐川など色んな団体が参加してくれていると思います。今年は声かけができなかったため例年より参加者は少なかったと思います。また何かの機会に地域全体でできたらいいなと思っています。

その他ご意見はないでしょうか。

それでは次の議題に移りたいと思います。全体会・部会の進め方について、事務局から説明をお願いします。

○上田（事務局）

議題（４）全体会・部会の進め方について（資料３，４）の説明

○石川会長

ありがとうございました。

事務局からの説明について、何かご意見、ご質問等はございませんか。

○福留委員

計画の進捗状況をこの協議会で議論することだが、取り組みは各部会から全体会へ上がってくるとの認識でよいか。

○上田（事務局）

はい。

○福留委員

その場合に、例えば計画にある、川本来の生態系を取り戻すといった場合に、アユであれば下流で産卵して上流へと溯上していくといったように、上流から下流にかけてまたがるものは、部会から上がってくるのを待つのではなくて、全体会として部会をリードしていくことも必要ではないかと思うが。

○上田（事務局）

部会単位ではなかなか議論が難しく、流域全体にまたがる内容は、部会で議論してもらおうというよりも、こんな取り組みをこの場所でとか、全体会で議論してリードしながら、部会で検討していただきたいことを、部会に下ろしていきたいと考えています。

そこで、先ほどの福留委員からご意見がありましたように、全体会が今日始まったばかりの１回目で、部会もまだ設置されていませんので、部会で何か検討してもらいたいといった体制も組まれていません。このため、まず、計画の取り組み項目の中から、優先的にどのようなことから取り組んでいったらいいのか、最初から何もかも実施するというのは無理ですので、今年は流域全体でこういったものから取り組めばいいのではということ、本日せつかく皆さんにお集まりいただいておりますので、意見交換をさせていただけたらと思っております。事務局からの案として、資料の中に例としてあげておりますが、仁淀川の一斉清掃の日の制定から始めていったらどうか。あと、親子で川にふれあうイベントとか、安全・安心で快適な水辺空間の整備といったことで、川で遊ぶに

も日陰がないので休憩所があったらいい、水道やトイレがキャンプ場になれば整備すればとか、仁淀川の清流保全を進めていくうえでどのようなものから取り組んでいったら良いか、といったことを皆さんのご意見をお聞かせいただけたらと思っております。

○石川会長

今事務局から例を出していただきましたが、この協議会は今後仁淀川清流保全計画を進めていくうえで指針を示す場であると思います。各部会は流域のブロックごとですが、流域全体のことを頭に入れて、仁淀川の清掃ですとか、ふれあうイベントとか、快適な空間の整備とか事務局から例をあげてもらっているが、これ以外にも、こんなことからやっていったらいいのではないかと、ご意見がありましたらどうぞ。

○山崎委員

私が25年位前からやっているのは、仁淀川というよりも自分が遊べることから始めたのですが、例えば11月に山芋料理をやったり、20人から30人足らずで、毎年やっております、始めた頃はまだ小さかった人が、今は大人になり川へ子供を連れて来て子供同士で遊んでいる。これらは20人から30人規模ならできるが100人規模になると難しい。私は佐川に住んでいるが、20年ぐらい前に地図に半径10キロの円を書いて、道路がどこにあって、水環境がよいかどうか、候補地を10箇所決めて現地に行ってみたが良い所がなかった。それで昔遊んだところで、人が行かないような谷川で、そこでずっと遊んでいる。もうひとつは山ですが、雑木林に人を連れてきて遊んでおり、みんながツツジが咲いてきれいだねとか、雨の日でも風が吹く日でもそこへ行くことが楽しい。何も特別なことをしなくても、それは私一人の楽しみではなくて、5万分の一の地図では2ミリの場所だが、そこでやっていることは、2ミリの問題ではなくて、あちこちへ飛び火していくであろうと。こういうことを仁淀川でも、同じことが起こるんじゃないかと。仁淀川でもポイントで何かできないかと。去年福留所長（委員）が実施した多自然型川づくりのように、人がたくさん集まることをまず、ポイントの箇所がいいのでこういうことから始めたらどうか。多岐にわたるたくさん問題を一度に解決することはとてもじゃないけどできない。ポイントで人が集まって議論する場所を作ってみることから始めてはどうかと思います。

○石川会長

どうもありがとうございました。川の問題は多岐に渡りますが、ポイントで人が集まって議論できる場所作りから行ってはどうかといったご意見でした。

このほかご意見ないでしょうか。森林再生の面で斎藤委員さん何かありませんか。

○齋藤委員

国としては、スギやヒノキの人工林が多く残っているので、広葉樹との混交林化も図っていきながらも、林業としても成り立つようにコスト削減に取り組んで山を元気にしていきたいと考えています。また、課題の一つに挙げられている「森林の荒廃」とは間伐の遅れを指していると思いますが、地球温暖化への対応としても間伐を進めていかなければなりません。これを進めれば川の環境も良い方向へと進んでいくのではないかと考えています。まず何から取り組んでいくとすれば、この資料にあるように仁淀川の一斉清掃の日の制定とか、できることから取り組んでいけばいいのではないかと考えています。

○石川会長

国としても間伐を進めていくといったご意見で、流域全体でできることとすれば、仁淀川の一斉清掃から始めていけばどうかのご意見でした。

その他ご意見はございませんか。

○吉本委員

私としても、仁淀川の一斉清掃から実施したらどうかと思います。計画の24ページの写真に、昨年10月24日に国道56号の仁淀川大橋の下で行った、ラブリバー仁淀川パートナーシップが紹介されているが、この日は、私どもの会、あるいはライオンズクラブさんを始め、13から14団体の160人ぐらいに参加してもらい一斉清掃を実施したわけですが、河川敷に散乱するゴミを回収して環境の美化を図ると、そういった活動を通して地域に水辺環境の保全の重要性をアピールするという狙いがあります。地域住民の方の参加を願って意識の高揚を図ることが大事ではないかと思っておりますので、まずは一斉清掃の日を制定して、いろんな団体、ボランティア、地域の方々のご協力を得て、清流としてあり続ける限りということからまずやったらどうかと思います。

○石川委員

これまでも精力的に一斉清掃に取り組まれていると思いますが、特定の地域だけではなく、流域全体が清掃を通して環境保全のアピールをしていくのが大事ではないかというご意見でしたが、団体だけではなくて一般の方も参加されていますか。

○吉本委員

パートナーシップの特徴は、一般の方もそうだが、国会議員や県議会議員、市町村の議員の方、開催する場所の首長さん、市町村の職員の方も参加してくれて、一般の住民と一緒にいろんな方が参加して交流もできるといった特徴がある。

○麻岡委員

吉本委員さんの補足をさせていただきますと、パートナーシップに加盟している団体は、国土交通省管轄の神谷から下流の団体で組織されています。常に問題になるのは、上流との連携をとった一斉清掃をすべきではないかということが問題となり、上流を管轄している県にも再々要望しています。各地域では単独で清掃をやられているようですが、できれば仁淀川は一本ですので、年に1日の日程を組んで清掃することが大事ではないかと思います。特に台風時には上流から雑木等いろんな物が流れてきて、下流の新居の海岸に打ち寄せて多額の費用がかかっているといった現実がありますので、子供たちにも参加していただいて、流さない、捨てないということ、口で言うのではなくて、清掃に親子で参加して、ゴミを集めるとこのぐらいきれいになるということ、子供たちにも認識をしていただくことで、このことが命を大切にすることにつながっていくのではないかと思いますので、ぜひ、一斉清掃が実現するようにお願いをしたいと思います。

○三戸委員

日ごろはラブリバーパートナーシップにご協力いただきありがとうございます。7月7日が七夕で天の川ということで、7月を河川愛護月間とし、全国で一斉清掃を行う日を1日設定しています。全国一斉とはなかなか難しいが、今年は物部川、仁淀川、海岸で7月4日の日曜日に実施します。麻岡委員からお話がありましたように、国管理の区間がかなりゴミが多いので下流で実施していることもあります。県管理の上流では清掃のために川へ入れる場所が少ないのではないかと、危険が伴っていることが原因ではないかと思いますが、市町村にはこの日に一斉清掃を行うことをお知らせはしております。ほかにも仁淀川では各種団体が清掃活動をされていますので、うまく日程を調整する形で、一斉清掃の日を制定されてはどうかと思います。

○刈谷委員

皆さんから一斉清掃の話が出ていますので、伊野製紙工業会では毎年80人位で、7月に清掃をした後カヌーで遊ぼうというイベントを実施しているが、我々が清掃している場所のゴミが毎年少なくなっているの、一斉清掃の日が決まれば、製紙工業会としてもこの日にあわせて、より一層メンバーの参加を募っていきたいなと思います。

○石川会長

各地域でいろいろ活動をされていると思いますが、流域のどこで誰がゴミを拾っているかといった情報が、流域で共有できていないという、共通認識を持つ場としてこの協議会があったらいいと思いますし、それを各地域の人にお伝えするといった機能も大事だと思っております。今、上流と下流ということでお話がありました、上流の仁淀川

町さんは、今年の仁淀川流域交流会議の事務局ということですが、調整役になっていた
だけなら非常にありがたいと思いますがいかがでしょうか。

○大石委員（代理）仁淀川町企画課 下久保課長補佐

仁淀川流域交流会議として今すぐにお答えすることはできませんが、仁淀川町内には
清掃活動をされている団体もありますので、交流会議としても一斉清掃を議論していく
ことは可能だと思います。

○鍋島課長（事務局）

仁淀川の一斉清掃につきましては、この協議会としてまず、一斉清掃の日を定めてい
きましょうということが決まれば、事務局で清掃の日の調整しまして、一斉清掃の日を
定めていきたいと思えます。四万十川については、4月10日前後の日曜日を一斉清掃
の日と決めまして清掃に取り組んでいますので、仁淀川でも同じようなことができると
思えます。あわせて、次の議題で説明を考えてましたけれども、取り組みに対しては当
然予算がないとできないといった面がありますので、資料の5にありますように、県で
は、豊かな環境づくり総合支援事業費補助金を構えてまして、このメニューの中に今年
から②豊かな流域づくり活動支援事業で2百万円位の予算を構えておりますし、一斉清
掃の費用も補助金の対象となりますので活用していただけたらと思えます。また仁淀川
については次の資料6にあります、アサヒビールのスーパードライ1本1円というこ
とでパートナーズ協定を結んでおります。仁淀川流域全体の清流保全活動に使って
いただきたいとのことで、仁淀川については、流域の市町村で構成される仁淀川流域交
流会議にアサヒビールからの寄付金の受け皿になっていただくことになっておりますので、協
議会で提案された事業についてはこの寄付金や県の補助金を使っていただきたいと考
えています。

○石川会長

皆さんのやる気もあり、資金もあるということですが、県環境共生課、仁淀川流域交
流会議などと連携しながら、まずは仁淀川の一斉清掃の日を定めて清掃をしていくこ
とから始めていくといったことでよろしいでしょうか。よろしければ委員の皆さん拍手を
お願いします。

○委員

－ 拍手 － （承認）

○石川会長

ありがとうございます。それでは、まず、仁淀川の一斉清掃の日を制定して清掃から

始めていきたいと思います。

このほか、何かご意見はありませんか。

○森委員

いの町観光協会ですが、協会のイベントの中で、「仁淀川神楽と鮎と酒に酔う」があり今年で3回目となりますが、このイベントは河川敷を使って流域の神楽と、アユの火振り漁をやりながら川で1日を楽しむというイベントをやってまして、出店者からは出店料をいただいて、その金額の一部を環境保全に役立てるということで、今年は約3万円の金額をいただき、清掃のための軍手を購入していの町にお渡しをしました。

また、いの町観光協会で作成したポスターがあり、これは名越屋沈下橋から取った写真で、紙のこいのぼりと子供と一緒に遊んでいる写真でして、実はこのポスターが、今月の6日からニューヨークのセントラルパークで「ジャパン・デー」というイベントに展示されてます。ぜひ皆さんこのポスターをお持ち帰りください。

○石川会長

今日が1回目の協議会ですが、次回からポスターとかパンフレットで皆さんが持っておられるものがありましたら、持ってきていただいて共有できたらと思います。

○臼井委員（代理） 箭野副部長

事務局側の立場で申し上げますが、1回目のこういった会議を開いて、一緒に手を携えて流域の清流を守っていこうという取り組みがスタートしたと思います。今後部会を重ねていく中で、いろいろ地域発のアイデアが出てまいります。これを全体会でまた議論をしていただくことで、流域全体にこういった機運が盛り上がっていくのではないかと願っています。このために行政側としては資金的な援助ができたという立場が望ましいのかなと思います。また行政側にはダム、砂利の問題を抱えておりますが、我々としては環境面から訴えていく立場として、この協議会に望みたいと考えておりますので今後ともどうぞよろしくお願いします。

○石川会長

先ほどの「仁淀川神楽と鮎と酒に酔う」はすごくいい取り組みだと思いますが、昼ごろにみんなで環境活動の発表会をすとか、流域の取り組みの紹介をしていくとか、こういったことをして盛り上げていけばいいのではないのでしょうか。

○森委員

地元の方々でということを実施しており、前回は地元の波川地区のまちづくり委員会と一緒にイベントを行いまして、昼間は子供を対象に、河原のゴミ拾いをやってからイ

ベントをはじめ、昼間は子供、夜は大人という形で仁淀川を再度見つめなおしてほしいということでやりました。

○石川会長

いの町観光協会で実施されてますが、仁淀川流域全体で盛り上げていくような、人がものすごく集まりやすい場所で行っていただけたらと思います。

そのほかご意見はないですか。無いようでしたら、流域の皆さんが一緒になって取り組んでいくということでこの度この協議会が設置されましたので、委員の皆さんもそれぞれの職場に帰られて実施できるようにしていただきたいと思います。我々もできる限りの協力をしていきたいと思います。

それでは事務局にお返しします。

○鍋島課長（事務局）

長時間ありがとうございました。今回は第1回目の協議会ということですがこれを機会に、部会を設置しまして清流保全に取り組んでいけたらと考えていますので今後ともよろしくお願いします。まずは、流域市町村、住民の方々と協議をしまして、仁淀川の一斉清掃の日の制定から始めていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。